

1-2-16aメディア

ここでは、「メディア」についてお話をします。
まずは、「マスメディア」を中心に考えましょう。

①メディア

「**メディア** (media)」というのはmediumの複数形で、何かと何かの中間にあるもの、何かと何かをつなぐものです。

だから、〈媒介するもの。手段〉と訳されます。

たとえば、「言語」は、人間が世界を認識する根本的な手段です。
人間と世界を媒介するものです。
だから、言語はメディアだといえます。
それを、「言語」の項ではメガネにたとえました。

しかし、最近では、マスメディアとかインターネットメディアとかいわれるものを総称して、単に「メディア」と呼ぶことが多いようです。
この場合は、人と情報をつなぐものを広く指しています。

②マスメディア

「**マスメディア**」は、〈大勢の人に情報をつなぐもの〉です。
〈大勢の人に情報を伝達すること〉を「**マスコミュニケーション**」、略して「**マスコミ**」といいますが、その手段がマスメディアです。
この2語を厳密に分けて考える必要はないでしょう。

i) 国民国家の装置

近代国家にとって、マスメディアは非常に重要な役割をもっています。

国民国家の強みは、「この国は俺たちの国だ！」と国民が仲間意識をもっていること。
近代化したばかりの日本が日清戦争や日露戦争に曲がりなりにも勝てたのは、そのおかげだという人もいるくらいです。

当時の中国やロシアの兵士は、ただの徴用された被支配民にすぎませんでした。
それに対して、日本の兵士は、国民として「俺たちの国を守れ。家族を守れ。」と懸命に戦ったというのです。

でも、こうした意識をもつためには、今国がどういう状況になっているか、という情報共有が欠かせません。

マスメディアは、国民に必要な情報を知らしめることで、国家が一丸となって動くことを可能にしました。

もちろん、その力は、時として、国家権力に悪用されました。

第二次世界大戦の日本で、新聞やラジオが国家権力に都合のいい情報ばかりを流し、国民を戦争に駆り立てた歴史は消せません。

マスメディアは、国民を動かす力をもっているのです。

立法、行政、司法という三権に次ぐ第4の権力と目されることすらあります。

だからこそ、戦時中の反省を込めて、マスメディアは、国家権力の監視者であるべきだとも考えられています。

ii) メディア・リテラシー

もちろん、マスメディアの流す情報が正しいとはかぎりません。

これまで何度も誤報がありました。

時の権力者におもねるマスメディアもあれば、必要以上に批判的なマスメディアもあります。

しかし、わからなければならぬのは、必ず情報にはバイアスがかかっているということです。

しばしばマスメディアは「中立公正」でなければならないといわれますが、そんな情報はありません。

誰が見ているかによって、どこから見ているかによって、物事は違つて見えます。

だから、大事なのは、発信者の立場を明確にすることであつて、「公正中立」のふりをすることではありません。

iii) マスメディアの「正しさ」

こうした基本的なことが抜け落ちて、大上段から「正しさ」が振りかざされることが多いのもたしかです。

たとえば、コロナ禍の最中、厚生労働省のHPには「屋外など、適度な距離を保てる状況ではマスクは要らない」とずっと書かれていました。

にもかかわらず、テレビは「外出時には必ずマスクを」と言い続けていました。

いや正確には、一部の番組で、特にコロナ禍初期の番組で、屋外では原則マスクが必要ないことは指摘されていました。

が、それを指摘する番組や専門家は次第に淘汰され、姿を消します。

「マスク警察」は、マスメディアの偏った報道のせいでもあります。

政府からの「要請」がいつのまにか事実上「強制」になっていたのも、いわゆる同調圧力だけではなく、マスメディアの力が大きく影響したはずです。

iv) 知る権利

私たちは、民主主義社会に暮らしています。

さまざまな意見や考え方があるなかで、自分たち自身がよりよいものを選んでいかなければなりません。

ここで大切なことは、さまざまな意見や考え方があることです。

だからこそ、民主主義は多数決を採用しています。

多数者の意見が正しいのではなく、さまざまな意見があるから、しかたなく、多数が賛成しているということを根拠に、とりあえず納得をしてもらおうとしているのです。

だから、さまざまな意見があることを国民が知ること、それを議論する場があること、そのための良質で十分な情報が与えられること、、、

いわゆる「知る権利」を保障する装置として、マスメディアの使命は重大です。

どんなにインターネットメディアに押されていようが、第1の情報源として、いまだにマスメディアは頼りにされています。

だからこそ、情報には必ずバイアスがかかっていることをわかった上で、マスメディアをうまく使っていけるようにしたいものです。